

混合堆肥複合肥料の特長と施用効果

「みどりの食料システム戦略」の実現に向けた取り組みや、昨今の世界的な穀物需要の増加やエネルギー価格の上昇、ロシアによるウクライナ侵攻などの影響による肥料価格高騰対策として、化学肥料の低減や国内資源の利用拡大が求められています。堆肥と化成肥料を一粒化した「混合堆肥複合肥料」は、誕生から約10年が経ち、これらの課題解決にますます貢献します。

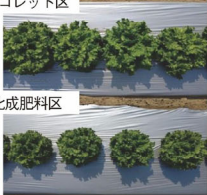
ここでは、代表的な混合堆肥肥料の特長と施用効果を紹介します。

「エコレット」：朝日アグリア(株)

「エコレット」は、良質な豚ふんや鶏ふん堆肥と化成肥料を含む堆肥入り複合肥料です。堆肥の長く効く性質と、連用による高い土づくり効果を併せ持ち、作物にもやさしい肥料として、2013年販売開始以降、多くの生産者にご愛顧をいただいています。

安定した収量を確保！

エコレット区
化成肥料区




埼玉県：リーフレタス
(定植：4月 収穫：5月)

20株平均重(g)

エコレット区	590*
化成肥料区	296

平均重量が増え、
収量の増加につながった！

エコレット区
化成肥料区




長崎県：たまねぎ
(定植：12月 収穫：5月)

60株平均重(g)

エコレット区	227*
化成肥料区	171

長崎総合科学大学 研究報告データより作成
L玉率が多く、
収量の増加につながった！

エコレット区
化成肥料区



群馬県：キャベツ
(定植：4月 収穫：6月)

5株平均重(g)

エコレット区	1,156
化成肥料区	777

生育のバラツキも少なく、
重量も上回った！

*は1検定で5%の水準で有意差を示す

「エコレット」の各種効果(下記)により、収量の安定につながったと考えられる。

- ①窒素・リン酸・カリの利用率向上
- ②土壌物理性の改善・可給態窒素量の増加・根張りの向上
- ③土壌化学性(pH・EC)の安定

「エコレット」による収量の安定化



各種エコレットの袋